

2020年12月5日

NPO 法人レインボーリボンの活動報告(概要)

代表 緒方美穂子

日本善意財団の皆様には、私達 NPO 法人レインボーリボンの活動にご理解を頂き、これまで数回にわたり多額のご寄付を頂きまして、本当にありがとうございました。本日は、財団の会議が開催されるとお聞きしましたので、これまでのご支援に対してのお礼を申し上げるためにお伺いしました。また、この機会に私達の活動の一端もお話しさせて頂く機会も頂き、改めてお礼を申し上げます。

1. 立ち上げ後の日々の活動(コロナ前)

レインボーリボンのスタートは、小学校の PTA で出会ったお母さんたちが作った NPO 法人で、レインボーは 7 色の個性、つまり多様性の文化、リボンは仲間との絆、未来に続く希望を表しています。

活動の 1 つの柱が PTA の研修です。「PTA を誇り高いボランティア活動に」というスローガンに 2013 年 6 月から活動を始めました。

2 つ目が「学校を子どもたちの楽しい場所に」を掲げて、「いじめ防止教室」を小学校で実施してきました。

そして 3 つ目が「地域に子どもたちの『いのちの居場所』を」という事で、コロナ前は子ども食堂を 3 か所で運営して来ました。それが次の 3 つです。

「パルこども食堂」は 2016 年 4 月から毎月 1 回、月末の土曜日に NPO 法人 Learning for All の寺小屋で学ぶ中学生やソーシャルワーカー紹介の小学生ら毎回 30~40 人が参加していました。

「あおとこども食堂」は 2016 年 11 月から毎月 1 回、地元のこどもや乳幼児連れの親子、高齢者ら毎回 40 人程度がオープンで参加していました。

2017 年 12 月からは「よみかき宿題こどもカフェ@なぎ」を東京都福祉保健財団の助成金を得て、10 人登録のクローズドでやってきました。

2. コロナ後の活動状況

しかしながら、今年始めからの新型コロナウイルスによって、活動が大きく変わりました。学校が休校になり、学校で食べられていた給食がなくなり、また毎月 1 回の子ども食堂に多くのこどもが集まってくるのを避けるため、こどもも来るのをためらうようになりました。

更に感染拡大に伴い、これまで通り地域の集会所等の場所が借りる事ができなくなり、みんなが集まって一緒にご飯を食べることも難しい状況になりました。このため、7月以降、食堂当日は会場を借りられるところでメンバーがお弁当を作り、「お弁当持ち帰り方式」にしてこれを取りに来るように連絡したり、あるいはこちらから届けるようにしました。

そして11月からは「フードパントリー」(保護者対象の食品持ち帰り)や、お弁当持ち帰りなどを行っています。先日は、財団の谷口さんや林さんも応援に来て頂きまして、本当にありがとうございました。

### 3. どんな子どもたちが来ているのか

では、私達のこども食堂にはどんな子どもが来ているのか、2つの事例をお話しさせていただきます。

#### 事例(1)I君のケース

約10年前、I君が小学校低学年の頃、父親はイスラム教徒の方で日本人のお母さんと3人暮らしでした。その後、夫婦が離婚したのですが、父親には既に同じイスラム教徒の奥さんがおり、子どもも二人いたのです。しかも、家の近くに住んでおり、子どもの一人はI君と同じ学年でした。後でわかった事ですが、I君のお母さんとの結婚は父親が日本で生活するための手段だったようです。その離婚や家族の事がわかるとI君はいろいろと問題を起こすようになりました。

その後、別の同じ学年のR君家族とI君のお母さんが仲良くなりましたが、R君の家庭も複雑で、R君も知的障害がありました。そのR君がI君の家に転がり込み、3人で暮らすようになりました。そこからI君の行動がおかしくなり、2018年には暴力事件を起こしてしまいました。その後、R君は実家に戻り、I君にもようやく元に戻りつつあるようです。

#### 事例(2)4人姉妹のケース

おばあさんKさんには二人の子どもがいます。その一人の娘にはこどもが女の子ばかり4人いて、Kさんがいつもこの4人をこども食堂に来てくれています。この4人の女の子を父親はみんな違い、Kさんも少し知的障害のある方です。

このほか、服装がひどい状態のこども、上履きも買ってもらえないこどもや歯がぼろぼろのこどももいます。

コロナの影響でこれまで働いていた人が職をなくし、こどもを食べさせるのにも困っている家庭もあります。

事例(1)のI君については、子ども総合センターに連れて行ったりとか相談に乗ったりとか、出来る限りの支援をしました。子ども達はいろいろな家庭の事情を抱えています。こども食堂が出来る事は少ないでしょう。それでも、私達は、なにかしら子ども達

のために、子ども食堂等の活動を通して少しでもできることはあると信じて、日々活動を続けています。

#### 4. 最後に「コロナ」の影響について

コロナの第3波の感染拡大で、こども食堂の会場が借りれなくなり、子どもたちも集まりにくいために、今後は自分たちで場所を借り上げてこども食堂を続けるようにしています。その運営も人数を制限した「クローズド・ケア型」でフードパントリー形式等にならざるを得ないと考えています。それでもシングルマザーからの助けを求めるアクセスは確実に増えています。今、個別に支援を続けているのは19世帯59人ですが、更に増え続けています。

今一番心配しているのが、シングルマザーが職を失い、さらに経済的な困窮が進み、こうした大人のストレスがこどもへの暴力に向かうのではないかな危惧しています。

私達の活動もこれから制約の中で続けて行きます。こうした中で、財団のご支援は本当に助かっています。これからも引き続き、宜しくお願い致します。

以上